

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人大分大学

1 全体評価

大分大学はその憲章に則り、国際化が進む社会及び地域のニーズに的確に対応できる豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、大分県唯一の国立大学として「大分創生」を目指し、これまでに蓄積してきた知的資源を最大限に活用した教育・研究・医療・社会貢献活動を積極的に展開し、もって地域活性化のための「知」の拠点としての機能の高度化を推進することを目指している。第3期中期目標期間においては、社会が求める高い付加価値をもった人材の養成、「知」の拠点としての機能の高度化、新時代のガバナンス体制の構築による戦略的大学の経営の実現を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学生を大学運営業務に従事させ、職業意識を涵養するとともに、一層の経済的支援を図るため「大分大学オンキャンパス・ジョブ制度」を創設するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 大分県福祉保健部と地域共生社会ネットワーク事業の推進に向けて協議を開始している。令和3年2月には、前厚生労働事務次官による講演（演題：地域共生社会の実現のための福祉保健分野における具体的な施策のあり方）の機会を設け、その際、大分県における地域共生社会の構築について大分県側との意見交換を実施している。（ユニット「地域包括ケアシステム」を支える教育・研究拠点の創生」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載18事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、令和元年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

○ 研究費の不適切な経理

昨年度に引き続き研究費の不適切な経理が確認されていることについて、原因を究明して対策を講じるなど、再発防止に向けた取組は行われているが、更なる内部統制の充実を図るなど、引き続き積極的な取組を行うことが望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 災害ボランティアの派遣

「令和2年7月豪雨」の被災地へ、「学生災害ボランティア講習会」を受講した学生延べ41名を派遣し、被災地域へ貢献している。また、フォローアップのため「令和2年7月豪雨災害と復興への課題」と題した学生のフィールドワークを、被災地で実施し、34名が参加している。これにより被災地の現状と災害復興への課題について学ぶとともに、学生のボランティア精神の涵養ができています。

○ 「大分大学オンキャンパス・ジョブ制度 (OCJ)」の創設・試行実施

学生に対し一定の教育的配慮の下、大学運営（行政）業務に従事させ、大学職員とともに働くことで、職業意識を涵養するとともに、一層の経済的支援を図ることなど、「教育的観点・目的」、「経済的支援観点・目的」、「職員採用の観点・目的」、「困窮学生への経済支援の観点・目的」を骨格にした「大分大学オンキャンパス・ジョブ制度 (OCJ)」を創設し、試行的に実施している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ マッチング率の更なる向上

卒後教育においては専任教員による研修医個別面談や研修医説明会の実施や、ウェブサイトでの情報発信を行ないPR活動に努めた結果、マッチング率は89.6%となり、さらに一般枠は二次募集を含め100%を達成し新医師臨床研修制度の創設以降の最高値となるとともに、研修医のメンタル・ヘルスケアの更なる充実のために、新たにメンター制度の開始や指導医の質向上を目指し360度評価に基づくベスト指導医賞を制定するなど、卒後臨床教育実施体制をさらに強化している。

（診療面）

○ 令和2年7月豪雨の災害支援及び新型コロナウイルス感染症対応支援活動

令和2年7月豪雨では、大分県からの要請に応え、DMAT（災害派遣医療チーム：医師・看護師・業務調整員）を熊本県人吉市に派遣するなどにより、災害支援活動を行うとともに、新型コロナウイルス感染症対応においては、大分県の要請に対応し、軽症者の宿泊療養施設へ延べ89名の看護師を派遣するなど、災害支援及び新型コロナウイルス感染症対応に取り組んでいる。

（運営面）

○ 初診完全予約制及び逆紹介率の促進

31診療科のうち14診療科まで完全予約制を開始するとともに、令和2年11月から一部を除き全診療科で初診完全予約制を開始しており、加えて、地域医療機関との連携をさらに強化するために、医師事務作業補助者と医療ソーシャルワーカーが協力して、返書作成の体制を整備し、逆紹介を大幅に促進することができている。